

旭
ふり
徳
商店

何民團民長（或以之に準ずる者）氏名印
履歷書（用紙美濃野紙）
本籍府縣郡市町村番地族籍
誰何男（或以兄弟等）

現住所 氏名

一、何年何月より何年何月まで何地名
校に於て何學年修了又は卒業或は何
に就き何々修業等

一、何年何月何地に於て何々に付
又は何年間を

右之通に候也
年 月 日
右 氏 名 印

の諸外國(韓國を除く)に居留する總計は、
女三十二万六千八百八十二人にして、其内
は左の如し
北米一六六、五一五▲清國三四、九八八▲
カナダ七五八六▲西比利亞三、九六七▲
歐洲一、七五五▲

荒井賢次郎(度支部次官) 昨朝八時五十分南大門驛發の列車に上す
小川(農商工部事務官) 沿革杭路視察
二、〇八七 マニラ一、八九二 ▲新嘉坡
七、七三六 ▲其他二、三九九

公人私八

なりしが一昨夜歸任す
 小原省三(東京稅務監督局長技師) 一昨夜入城旭旗旅館
 夜入城旭旗旅館
 中山岸次郎(平壤財務官) 一昨夜入城旭旗旅館
 州旅館
 佐分貞男(外務省參事官) 一昨夜入城旭旗旅館
 城旅館

●宋聚
●駿免官せられて朴齊純内相となす

●人民の感情は之に依りて多少和らぎ振らん

●朴齊純以素政國家に非ざるを草人

●近事片々

しては比較的硬骨にして廉潔の人物であつた。彼は日清戦役以前に於ては大の清國好きでありしが其後多少日本に好意を表せんとす。日露戦争前までは未だ眞に日本に好意を表するに至らなかつた。

▲倍も 内相の更迭は済みたれども尙更に
他閣員の更迭を必要とせざるや當局者如
▲宋氏 去らば勿論閣次官も去らんさら
内部次官は何人の頭上に墜ち來るべきにや

此際 思ひ切て總理と日本人とするの滑
氣はなきか 次官制度の弊は祖國の輿論なり
代議士大竹氏が口を極めて次官制度の

自由黨初期の豪傑内藤有一氏帝國議會に於て久方より於て痛快なる演説となせり殊に身政友會に在りながら大親分伊藤公を痛罵せる如きは僅に當年の畫影ある

△愛知 縣會議長として硬手腕を揮ひて
△朝比 奈祿堂東京新報なる日刊新聞を
△碌堂 の論議犀利にして當るを幸ひ

倒すの概あり眞に天賦の論文記者ならん
 ▲拓殖 補助金は實族院にて大分反對
 しが終に可決せりと云ふれ目出度き事に候

